



<背景>

- ・全国的に機械系や航空・宇宙系、物理工学系の学科の女子学生比率が低い
- ・女子がこれらの学科で学習や研究を行い、卒業生が機械メカ等で働くことにつき、日本社会では正しいイメージが形成、浸透されていない
- ・「化学＝白衣」のイメージに対し、「機械＝作業服」で油まみれというステレオタイプが固定化しかし実際は、

作業服での作業が必要な研究は、ごく一部にすぎません

女子も、男子と同様に就職はとても良好で、卒業後は様々な企業で活躍しております
日本機械学会の会長は、女性（大島まり先生）です

- そこで
- ・機械物理系って、女子が少なくて、いろいろと不利ではないか？
 - ・機械物理系の女子学生って、作業着で油まみれなんじゃない？
 - ・機械物理系の女子学生って、何を研究するの？
 - ・機械物理系の女子学生って、どういう会社に就職するの？

という疑問にお答えし、心配、誤解を解消するために

鳥取大学機械物理系の女子在学生全員と上級生、卒業生のグループ

「鳥大メカ女連絡会」を結成しました

機械物理系の女子学生や卒業生の動向をお伝えし、リアルな将来イメージを描けるようにします

女子学生が高校にお伺いして、研究紹介講演や説明、生徒の質問への回答をいたします。
その様な機会を提供してもよい、という高校は、下記へご連絡いただけると幸いです。

〒680-8552 鳥取市湖山町南 4-101 鳥取大学工学部機械物理系 西田

E-mail : nishida@mech.tottori-u.ac.jp

<卒業生の今>



井上紗矢香（2017年機械工学科卒、信頼性・設計工学研究室出身）

三菱電機（株）姫路製作所で生産技術の仕事をしています。姫路製作所は、自動車に搭載する電装品を主に開発・製造しており、私は新たな生産工程の開発などに従事しています。少し大変なこともあります。が、「真面目に楽しく誠実に」仕事をすることを心がけています。大学では、機械部品などの疲労破壊への耐久性に考慮した設計への活用を目指して、金属めっきを用いた応力（材料に加わる力）測定方法の研究を行っていました。

<在学生の今>



山本朋実（大学院機械宇宙工学コース1年 機力・メカトロニクス工学研究室 兵庫県立宝塚北高校出身）

将来は介護ロボットを作りたいと、機械工学科に入りました。研究室では、神経線維束の力学特性を調べて、むち打ち症などの怪我のメカニズムを解明する研究を行ってきました。今秋から、カナダのサイモン・フレーザ大学(SFU)に1年間の予定で留学しており、人間の姿勢制御をテーマに研究をしています。日本とは異なり、カナダでは各分野毎に専門の技術者が居り、分業で研究を進めています。英語のみでの研究は非常にハードで大変ですが、楽しいことも多く充実した日々を送っています。



吉田花那（大学院機械宇宙工学コース1年 流体工学研究室 四天王寺高校出身）

私は、航空機の翼の研究をしています。航空機の低燃費化を実現する最適な翼を見つけるべく研究しています。将来の夢は、世界で活躍する機械・航空宇宙工学系の研究者になることです。学部4年次には TOMODACHI-STEM @ Rice University Program に参加。航空宇宙の本場アメリカの名門校ライス大学で1か月間の研究インターンシップを経験しました。その後、「トビタテ！留学JAPAN」の奨学金を得て、ライス大学の同じ研究室に今夏から1年間の留学に来ています。



須藤優衣（機械工学科4年 制御・ロボティクス研究室 京都府立福知山高校出身）

将来、医療用のロボットを作りたいと思い機械工学科に入学しました。

現在、筋電義手の関節角度を推定するシステムについて研究をしています。筋電義手とは人間が筋肉を動かそうとするとときに筋肉から発する筋電信号を検知し自分の意思で手首や指を本当の手のように動かす義手です。私は筋電信号を皮膚表面につけたセンサで動きを検知し、手指動作を推定し、ロボットハンドを駆動するという流れで研究を行っています。難しいことや大変なことも多いですが、それらを解決できた時はとてもうれしいです。